

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書

高齢者がん診療ガイドライン策定とその普及のための研究

研究分担者 唐澤 久美子 東京女子医科大学放射線腫瘍学教授

研究要旨

ガイドラインに対応する教育・研究・診療の基盤となる老年腫瘍学のテキストの作成を開始した。編集委員会にて内容を決定し、分担執筆者に執筆を依頼し、完成した原稿から査読をすすめている。

A. 研究目的

厚生労働省科学研究 がん対策推進総合研究事業「高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究」（2018～2020年度，研究代表：田村和夫）が過去3年間にわたり実施した事業の結果，診療指針策定にあたり基盤となる学問としての老年腫瘍学のテキストブックの必要性が浮き彫りになった。そこで，本研究では，老年腫瘍学のテキストブックの内容を，班員，研究協力者及び日本がんサポーターズケア学会教育委員会と協議し，テキストブックの内容と執筆者，査読者を決定し，研究成果を日本がんサポーターズケア学会が引用する形で出版を行う。

B. 研究方法

老年医学、腫瘍内科学、腫瘍外科学、婦人科腫瘍学、放射線腫瘍学、社会医学、老年病態研究を専門とする7名からなる編集委員会を結成し、田村班班長であった田村和夫先生に監修を依頼した。さらに、日本がんサポーターズケア学会(JASCC)の教育委員会に本研究への協力を要請し、共同体制を確立した。テキストブックの内容を協議検討し、①加齢による分子・細胞や臓器の変化、②加齢に伴う心身・社会・経済的な問題、③高齢者ががんならばにがん患者の病態生理、④適切な併存症・合併症治療、⑤がんの予防・診断・治療（治療選択・治療の止め時）、⑥必要に応じて関連するがん専門医や包括ケアセンター（介護・福祉サービス）を紹介できること、⑦医療経済（費用対効果・quality adjusted life year [QALY]）、⑧終末期医療（quality of death・良い死に方、ACP）を理解できる書籍とすることとした。

C. 研究結果

章立て、項目立てを以下のように決定した。

第1章 高齢がん患者の特徴 非高齢者と何が違うのか？

1) 疫学

病因

高齢者に多いがん、予後

2) 症状

発見しにくいのをどう発見するか→がん検診のあり方、検診すべきかどうか？

3) 個人差

フレイル（身体面、精神神経面、社会面）、認知症

4) 臓器・細胞レベル

①細胞老化・免疫老化とがん化の関係

②がんが及ぼす影響—カヘキシア（サルコペニアを含む）

③PK/PD

5) 社会・経済的背景

介護・福祉

第2章 高齢がん患者の主治医になったら？

1) 機能評価

ロバスト/プレフレイル/フレイル/要介護、認知症

2) 診断・検査

3) 機能評価に基づく

目標設定（「治療しない」は→3章へ）

治療法の選択

① 意思決定支援

治療選択までのプロセス：とくに認知障害のある患者の対応、意思決定支援

② 手術

③ がん薬物療法

重複がんの対応 治療の組み合わせ 有害事象を含む、中止時期についても

④ 放射線治療

4) 治療による悪化を防ぐアプローチ

栄養面（NST）

運動面（リハビリ）

心理・精神面

歯科口腔ケア

5) 高齢者に多い併発症への対応

- ① 糖尿病
- ② 循環器疾患
- ③ 腎臓病
- ④ その他

ポリファーマシー、使用を避けるべき薬剤

### 第3章 がんを抱えながら生きる高齢者への対応

#### 1) QOL

栄養療法  
運動療法  
緩和療法（痛み）

#### 2) QOD(Death)

ACP  
NBM (Narrative Based Medicine)  
保険制度の利用

### 第4章 老年腫瘍学の教育・研修制度

### 第5章 老年腫瘍学領域における研究手法

#### D. 考察

出版社への依頼と出版社決定、出版社から執筆依頼、出来上がった原稿から順次査読中であり、老年腫瘍学テキストブックの出版準備が順調に整っている。

#### E. 結論

令和4年度内の出版が予定できる。

#### G. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし
3. 書籍

（仮題）よくわかる老年腫瘍学  
金原出版より出版の準備中

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし